



## 特集「高専維新」

—— 有明高専の現状と未来について ——



高専祭市中パレード「築町付近を行く」（撮影・写真部・3C 古賀康泰君）

### 目 次

高専維新（特集）	2	冬季球技大会	19
はばたけ高く（座談会）	5	ラグビーフットボール大会	19
贈ることば	8	体育系クラブリーダー研修会	19
シリーズ「研究室訪問」(1)	9	シリーズ「クラブ紹介」(1)	20
シリーズ「人物・いま」(1)	10	シリーズ「中学校訪問」(1)	21
卒業生の大学生活紹介	12	学生会だより	22
卒業生の活躍状況	13	学寮だより	23
高 専 祭	14	卒業予定者の進路一覧	24
高専祭文化講演・同窓会コーナー	16	入試説明会	26
有明高専に編入学して	17	資格試験等合格者	26
プログラミングコンテスト	18	新任教職員紹介	27
ロボットコンテスト	18	トピックス	27
吹奏楽部定期演奏会	19	行事予定	28
学生会指導者研修	19	編集後記	28

# 特集 有明高専の現状と未来について

高専維新

竹村 哲男 校長  
〈聞き手〉倉橋 完充(教務主事)

## 変革の全体像

倉橋 校長先生は、機会あるごとに、昨秋の高専祭のテーマである「高専維新」を引き合いに出され、高専は大きく変わりつつある、とのお話をされます。

しかし、変わろうとする高専の全体像を、はつきりとつかみきれない学生が多いかと思います。本日は、「有明高専の現状と未来について」というテーマで、その内容を詳しくお伺いしたいと思います。

まず、今回の変化のきっかけはなんだったのでしょうか。

竹村 最近の、めまぐるしい技術革新ですね。それに、教育が迅速に対応できなくなった、ということでしょうか。このことへの危惧は、教育界全体に以前からありました。



アメリカ等と違って、日本の高等教育の特徴は、国が定めた基準により、学校の施設、設備から、授業の細かいことまで、規定されていることです。いまでは、これを最低限守ることが、日本全体の教育レベルの維持に、非常に役立っていました。

ところが、ここに不具合が生じ、それが目立つようになってきたわけです。

我が国の教育改善については、中教審、臨教審、大学審等で検討され、昨年7月、このデメリットを修正するため、学校教育法、設置基準等の改正が行

われましたが、そのなかの一つに、高専教育の改善があります。

倉橋 わかりました。では、その法令改正等の主な点について、説明願えませんか。

竹村 まず、学校教育法関係ですが、一つは、高専の分野の拡大です。つまり、工業又は商船以外の学科を設置できるようになったことです。二つは、高専に、専攻科を置くことができるようになったこと、三つは、高専卒業者に準学士の称号が与えられるようになりました。

次に、設置基準関係ですが、その改正の趣旨は、基準を大綱化し、弾力化することにより、それぞれの学校の自助努力を推し進めようとする点にあります。その主なものは、(1)授業日数は「35週にわたり210日」が原則とされていたのが、授業を行う期間は「35週」のみとなったこと、(2)授業内容の細かいことまで規定せず、学校独自のカリキュラムが編成できるようになったこと、(3)1単位時間の「50分」が、「標準50分」となったこと、(4)従来の「177単位以上」の履修規定がなくなり、卒業要件は、「167単位以上修得するもの」とし、そのうち一般科目は「75単位以上」、専門科目は「82単位以上」とされたこと、などがあります。

## 専攻科の設置

倉橋 では、これらについて、それぞれ伺いたいと思います。

まず、専攻科に関する、学位授与機構というのは、どのようなものでしょうか。

竹村 これは、昨年の7月に発足した新しい機関で、大学以外の研究教育機関での成果を評価し、審査することを主業務にしているところで、横浜に設置されました。高専も、この学位授与機構が認定する専

ができる素地があるかどうかが問題です。

ですから、新しい技術、変化に対応できるような人に育ってもらいたいと思います。そのためには、学生諸君は、受け身の授業態度では駄目です。自ら学ぶ姿勢が絶対に欠かせません。

前に述べたように、従来の「履修」という規定がなくなったのは、学生の自主的な、より前向きの学習を前提としているのです。

## 準学士の称号

倉橋 次に、準学士の称号を与えるということはどういうことでしょうか。



竹村 高専は、高等教育機関の一つでありながら、高専卒業生にはなんの称号もないという不具合がありました。現在、アジア各地から多数の留学生が高専にも勉強にきていますが、彼らもある意味で大変不利を強いられていたと思います。

今回の改正は、そのような不合理をなくしたといえます。なお、準学士の称号は、今までの高専卒業生にも与えられるものです。

## 授業時間・学校週5日制

倉橋 それから、授業時間についても改められましたが。

竹村 今まで、大学と高専の大きな差は、1単位についての授業時間でした。大学は、講義と同時に、教室外で自学自習を行うことで単位を得ています。ところが高専は、大学の2倍の時間をかけています。

当初、高専は、半分を講義、半分を演習で行うとの意向があったのですが、このスタイルは、今まで残念ながら実行されていません。やはり当初の計画のとおり、演習によって勉強させるという本来の姿に戻し、高専教育の特徴を是非実現してもらいたい



そんなものは、あっという間に陳腐化してしまいます。要するに、新しい技術を直ちに取り入れること

たいと思います。

倉橋 話は飛びますが、学校週5日制については、どのような動きになりましょうか。

竹村 学校週5日制は、高等教育機関が全国一齊に実施ということにはならないと思いますが、国立学校の大半は、平成4年度から実施となるようです。高専も、多分全校実施するのではないかでしょうか。

土曜日を休業日とする趣旨は、時間的ゆとりをもたせて学生の自主的学習、創造的活動を今まで以上にもたせることが狙いなのです。

学校週5日制になっても、土曜日に図書館は開きます。研究室も開いていますから、卒業研究等に打ち込んでもらいたいと思います。また、体育施設等も使用できますから、部活に打ち込んでもらいたいと思います。なお、文化系クラブも、体育系クラブ同様、もっと活発な活動を期待します。

倉橋 学校週5日制になると、授業のやり方にも改善が必要と思われますか、いかがでしょうか。

竹村 まず、授業形態、内容ともに変えなければなりません。今までの設置基準では、1単位時間は50分と決められていたのが、新基準では、学校週5日制を見込んで、「標準50分」となっています。

これはどういうことかというと、45分授業は駄目ですが、90分授業はOKということなのです。90分授業が好ましいのですが、本校ではひとまず100分授業からスタートします。



授業内容も、変える必要があります。本質的なことのみ教え、後は演習で体得させるようにするのです。先の話の繰り返しになりますが、自学自習、演習体得が高専教育の基本であり、学校週5日制をきっかけに、是非これを実現し、高専本来の姿を実現してもらいたいと思います。

先生方には、学生諸君の自学自習のために、授業

要目を作ってもらっています。これを、学生諸君に配布いたします。これには講義のポイント、参考書、参考文献が書いてあります。

学生諸君は、これを見て、図書館で参考書を調べ、自分で勉強することになります。

### カリキュラムの編成

倉橋 学校独自でカリキュラムが編成できるということは、一般科、各専門学科で最も好ましいと思われる授業科目が決められるということでしょうか。

竹村 そのとおりです。単位数も最低単位は規定しますが、一般科目と専門科目との単位配分も、学校により自由に決められます。各学科で十分検討して、今までのカリキュラムにとらわれない、理想と思われるカリキュラムを作つてよいのです。

本校では、昨年秋以来検討を続け、各学科の苦心の新カリキュラムができ上りました。これは、来年度の1年生から適用されます。

他高専でも、同様の努力が行われています。

### 有明高専の将来

倉橋 最後になりましたが、「有明高専の将来」について、締めくくりをお願いします。

竹村 今までお話ししたように、高専は大きく変わり始めました。まさに、「高専維新」といえます。

将来の日本の技術の発展を担う技術者は、「大学卒業の学士」ではなく、実験実習に裏打ちされ、ものに触れながら技術開発のできる「高専卒の準学士」と、「研究室でマンツーマンの訓練を受けた修士」の2つのグループに期待されると思います。

また、将来の技術者には、なんらかのセールスプロモーションがなければなりません。そのためには、それぞれの個性を磨くことです。

学生諸君は、大きな希望、高い目標をかけ、自分を伸ばすことに精進してください。

倉橋 本日は、どうもありがとうございました。今日のお話で、直面している「変革」の全貌がつかめました。これから、教官、学生ともに力を合わせて、新しい有明高専を作つて行きたいと思います。

(平成4年1月10日校長室にて)

## 座談会

# はばたけ高く

## いま、飛び立とうとする君たち

### 5年間を振り返って

司会 いよいよ卒業も間近になりましたが、さまざまな希望や期待を抱いて入学したこの有明高専での5年間は、君たちにとってどんなものであったのか、ざっくりと語ってもらいたいと思います。

太田黒 おおらかな学校で、自由に過ごせました。これは高専でなくて味わえなかった生活だと、大変満足しています。特に、寮生活は貴重な体験でしたし、クラブ活動も思いきりやれました。



江上 それほどはっきりした目的意識はなく、とにかく身につけることができ、よいところへ就職できれば、という程度の動機で入学しました。始め、女子学生が少なく、多少不安がありましたが、だんだん女子学生も増え、心配もなくなりました。いまになってみれば、校則にしばられることもなく、楽しい学生生活が送れたと思います。

塙本 楽しかったです。試験のとき以外、勉強をあまりしなくてよかったのが一番ですね。(笑) それに、高専祭とかで高校などにないことを、皆と一緒にまとめてやれたことが思い出に残っています。

大渕 普通高校と違い、クラブ活動を1年から5年までやれたことがよかったです。

太田黒 有明高専では、押しつけられるような雰囲

気がなかったのが一番ですね。普通高校の友だちの話では、ロボットかマシーンのような扱いを受けて

いると聞きます。それが本当なら、人間扱いではな

### 出席者

大渕 裕輔(機械工学科5年)  
(長岡技術科学大学編入学予定)

塙本 豊(電気工学科5年)  
(株九電工入社内定)

太田黒庸行(工業化学科5年)  
(九州工業大学編入学予定)

江上美智子(建築学科5年)  
(日本総合メンテナンス(株)入社内定)

### 司会

新谷 肇一(教務主事補)

いのではないか、とさえ思います。

江上 普通高校では、スカートの丈などまでやかましいと聞きます。高専生活では、受験というプレッシャーがないのがいいですね。ただ、入学当時、女性が少なかったため、クラブ活動で女性がプレーできるクラブがなかったのが残念でした。

### 高専受験

司会 高専受験の際、迷いはありませんでしたか。

太田黒 受験に迷いはなかったのですが、僕の場合、

第2志望にまわされたので、ちょっと考えました。

しかし、これも何かの縁かも知れないと思い、入学を決心しました。

塙本 高専の場合、就職がよいというので受験する人が多いのではないでしょうか。しかし、自分もそ

うでしたが、就職の心配が少なくて済むというこ

が、かえって直前までのんびりしてしまうこと

になりかねませんね。(笑)



太田黒 高専の場合、中学を卒業する段階で、まだはっきりした目的のないまま、進路を決めなければならないという不安があります。僕の場合、第2志望だったので、かなりとまどいがありましたが、やっていくうちに化学がとても好きになり、始めは考えもしなかった大学進学ということになりました。

### 高専での学習・生活

司会 高専での学習についてはどうでしたか。

江上 それほど勉強した訳ではありませんが、製図や実験・実習のレポートでは忙しかったですね。



太田黒 高専は目で見て、体で覚える実験・実習が多いのが特色ですね。

大渕 ただ授業を受けていればよいというのではなく、レポートの課題などは自分で図書館などで調べる必要もあり、それが大変勉強になりました。

江上 専門的に覚えなければならないことが多く、そういう意味ではかなりハードでした。

太田黒 専門のことを覚えないと、その学科を卒業する意味がないですから、真剣でした。でも、やっているうちに、好きになりましたね。

司会 高専祭や体育祭の思い出はどうですか。

江上 自分たちで作品をつくり上げること、自分に仕事をまかされ、責任をもってやり上げるという点に、やったのだという喜びを感じました。

大渕 1年生のときはよくわからず、上級生の指示に従ってただ仕事をするだけという感じでしたが、上級生になると、下級生を指導しなければならないという自覚と責任を覚えました。

太田黒 今年の高専祭の場合、これまでにない新しい企画をたて、それらがうまくいったことが素晴らしい思い出として残っています。例えば、五科合同企画、O Bセミナー、文化講演の企画などです。

江上 自分たちで企画を立て、下級生を指導しながら実行していくというところに意味があり、そのことが自分たちの勉強にもなったという気がします。

太田黒 日頃は無関心のようでも、いざ本番となると恐いくらいに真剣になり、“鉄の団結力”をみせる、というのが有明高専の面目躍如たるところですね。(笑)

司会 高専では、いろんな場面で上級生の指導を受けながらやっていくことが多いのですが、下級生にとって、これは成長のためにプラスになっていると思います。

大渕 下級生のときには上級生の指導が嫌でも、後になって、必ずそのことがプラスになっていると思います。

太田黒 高専では、世代の違いを感じることが勉強になるのではないかでしょうか。横のつながりもさることながら、縦のつながりが強いというのが特徴です。

江上 後輩と仲良くすることは、普通高校などからは、奇妙に見えることかもしれませんね。

司会 縦の関係といえば、寮などが特に強いと思われますが、寮生活の方はいかがでしたか。

太田黒 1年のときは、全く“地獄”に等しいものでした。(笑)しかし、あの経験があったからこそいまがある、といえるかとも思います。

江上 この程度の免疫がある方が、社会に出て、むしろ役に立つかもしれません。

### クラブ活動

司会 クラブ活動での思い出はいかがですか。

大渕 1年のとき鍛えられたことが忘れられません。しかし、最近は、後輩がなかなかいうことを聞いてくれませんね。なにか、世代の違いを感じます。



太田黒 自分たちも下級生の頃、そう思っていたのかもしれませんよ。(笑)

江上 私はサッカー部のマネージャーでしたが、今年、初めて全国大会に出場し、駒沢オリンピック競技場で試合ができるのが最もすばらしい思い出です。

太田黒 僕はバスケット部ですが、全国大会ぐらい行けると思っていたのに、結局行けずじまいでした。

(笑)しかし、最後の試合が最高の出来だったので、勝負には負けましたが、悔しさは微塵もありません。

大渕 上下関係を学ぶ上で、いい経験をしました。

太田黒 日曜日も練習で、不自由なことばかりでしたが、自分の根性や忍耐力を養うのに最適の場だったと思います。

### 学校や後輩への要望

司会 それでは卒業に当たり、学校や後輩に対して要望したいことがあれば、いってください。



大渕 先生方が、朝校門に立って指導したり、便所の見回りなどをされるのはいかがなものでしょうか。

太田黒 寮でも、5年になっても9時が門限というのはきついですね。しかし、そうでないと全体がうまくいかない、というのもよくわかります。やはり、

高専は、高校と短大が同居しているというシステムに問題がある、といわざるを得ないのでしょうか。

司会 それらの経験を生かして、生活面でも上級生が下級生を指導する、ということはできませんか。

太田黒 その上級生が問題なのかもしれません。(笑)

司会 その他、なにかありませんか。

塚本 カリキュラムの面で、大学のように自由選択の授業を増やしてほしいですね。

江上 本当に勉強したいことができるようにならえれば、と思います。

太田黒 現在でも選択の授業はありますが、選択の種類を増やしてほしいですね。

司会 後輩に残しておきたい言葉はありませんか。

江上 いま、女子学生が、少し派手になっているのではないか、という感じがします。

太田黒 ありますね。それに関連して、学生会の仕事を通じて感じたことがあります。学生会も、女子学生の要望にできるだけ応えようと努めましたが、女子学生側でも、もう少し要望に見合った努力をしてほしい、ということです。

司会 それは、例えばどんなことですか。

太田黒 例えば、掃除や草とりの作業など、顔に出して嫌がる傾向があります。好きなものは懸命にするが、嫌いなものはしない、という類いです。

塚本 僕の考えは、なんでも最低限のことをわきまえていれば、後は自分の好きなことをすればいい、というふうであってもいいのではないかと思います。

太田黒 それ以外のことでもう一つ、これはごく最近の自分の体験からですが、もう少し外の世界を知ってほしいということです。その体験とは、卒研の用事で大学に行ったとき、彼ら、大学生の一人一人にきちんとした意欲と目標があることを知り、カルチャーショックを受けました。それは、これでは社会から高専と大学とが分けられても文句をいえないのではないか、というほどの強烈なものでした。有明高専の周りに大学がないこともあります、自分もこれまで全然気付かなかったことでした。

江上 同感です。高専の周りが田舎であるということもあり、私自身いつも、時代の波にとり残されているのではないか、という不安を感じていました。

### 卒業後の抱負

司会 最後に、卒業後の抱負を語ってください。

太田黒 九工大に進学しますが、修士課程まで進むつもりでいます。将来は、海外の仕事につきたいと思います。

塚本 九電工に就職が決まりました。勉強の方はあまり好きではありませんでしたが、仕事は頑張りたいと考えています。なにか一つでも、これは自分がした仕事だ、といえるものができます、残せたらいいと思います。

大渕 長岡技術大に進学しますが、クラブを続けながら、他高専出身の学生に負けないように勉強したいと思います。

江上 東京の日本総合メンテナンスという会社に就職しますが、この会社は、男女を均等に扱ってもらえると聞いています。現在は、女性の社会進出がめざましいので、私も負けないよう、有明高専で習得したものを生かし、頑張りたいと思います。



司会 今日はありがとうございました。皆さん、これからここ有明の地を離れ、それぞれの道を歩いていくわけですが、体に十分気を付け、精一杯努力し、目標に向かって大いにはばたいてほしいと思います。

# ・贈・る・こ・と・ば・

旅立とうとする先輩へ感謝をこめて



## 新しい門出を待つ 先輩方へ

機械工学科4年

島秀之

5年間にわたる旅仕度を終え、それぞれの企業へ、大学へと旅立つ卒業生の方々、御卒業おめでとうございます。

先輩方は、これから最上級生から「新入生」へと肩書きが変わり、これまでと違った環境での生活を余儀なくされ、また、社会での縦と横のつながりに気をつかい、体力面、精神面と、心身ともにいろいろの苦労があることだと思います。その反面、それに見合う分だけのものがきっと返ってくると思います。

あと残りわずかな高専での生活を、どうか是非有意義に過ごしてください。



## 贈る言葉

電気工学科4年

上瀧裕司

先輩方は、今までの高専生活において多くのことを学ばれるとともに、多くの価値あるものを残されたことだと思います。それは、技術者としての知識であったかもしれませんし、部活に熱心に取り組む姿であったかもしれません。また、なにげない世間話に込められた思想であったのかもしれません。ひとつすると、今私たちがつらいと思いながらやっていることを、既に成し遂げられている先輩方の存在自体だったのかも……。

このような先輩方の足跡が、多くの者の憧れになり、また励ましになったことだと思います。高専を卒業されても、我々の目標となるような御活躍を期待します。



## まぶしかった先輩たち

工業化学科4年

上藤史子

いま、先輩方が新しい世界へ旅立たれる。いつも、私たちの一歩前を歩んでおられる先輩。人生の中で一等きらきら輝いている青春時代を、ここ有明高専で過ごされ、その姿を見てきた私たちは、先輩方がすごくまぶしい存在でした。私たちも、先輩がなされてきたことを受け継ぎ、越えられるように努力し、後輩にとって輝く存在になりたいです。

最後に、今日まで私たちを御指導していただき、本当にありがとうございました。感謝の気持で胸がいっぱいです。



## 卒業生のみなさんへ

建築学科4年

井上貴明

卒業おめでとうございます。5年間の高専生活を間もなく終えられる皆さんがとても輝いて見えます。かけがえのないたくさんのものを私たちに残してくれ、この有明高専を巣立ち、それぞれの新しい世界へと旅立たれるわけですが、皆さんの前に広がる世界は可能性にあふれています。夢をいつも忘れずに積み重ねていけば、いつの間にか実現へとたどり着いていることに気が付かれるはずです。今までに培ってきた自信と、これから背負う責任とともに一步一歩足を進めていってください。

また5Aのみなさん、3年半同じ教室で助け合い、喜び合い、いろいろなものを分かち合えたことは、僕の中に想い出となりいつまでもはなれることなく生き続けることでしょう。いつまでもこの有明高専での生活を忘れないで頑張ってください。

## シリーズ

# 研究室訪問 (1)

簗田 登世子

(電子情報工学科教授)

研究との関連を教えてください。

簗田 そのような渦の運動は複雑で、音源の運動と音の関係を解析することは現在のところ困難です。だから、基礎的な現象の研究から始めたわけです。

宮川 すきま風のような複雑な音も、複数の渦輪の組合せで表現できる可能性はあるわけですね。

簗田 ええ、基礎的な研究が、いろいろな音を解明する手がかりを与えることになります。

宮川 平成5年度から、卒研を指導されますね。研究を進める上で、大切なことは何だとお考えですか。

簗田 基礎学力は当然ですが、根気だと思います。

宮川 そうですね。それに集中力も大切ですね。

簗田 何度もやってうまくいかないときでも、諦めないで工夫し、続けていくと何かでできますね。

宮川 先生はいつも夜遅くまで研究されていますが、1個のデータを得るのにどのくらいかかりますか。

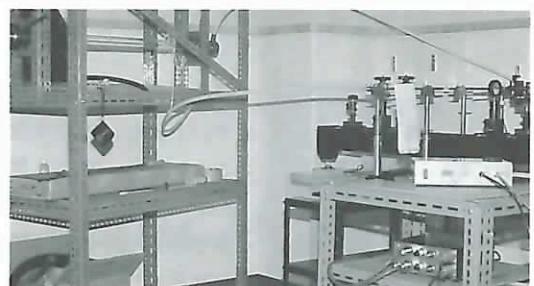
簗田 半日くらいです。装置の調整がうまくいかないときは、一日中やってもだめなときもあります。

宮川 もう、夜8時半を過ぎましたが、このあとも実験されるのですか。

簗田 ええ、もうしばらく実験して帰ります。

宮川 お忙しいところありがとうございます。

(この研究を始めた動機や、研究のおもしろさなども伺いましたが、紙面の関係で割愛しました。)



渦輪生成用衝撃波管



色素レーザーとシャドウ写真撮影用光学系

宮川 現在、どのような研究をされているのですか。

簗田 音の発生原因としての渦輪の運動と、音波の関係について研究しています。

宮川 もう少し具体的にお聞かせください。

簗田 左右の管の先端から渦輪を発射して衝突させると、音が生じます。衝突による渦輪の運動と、空気中に伝わっていく音波との関係を研究しています。

宮川 渦輪とはどんなものですか。

簗田 口を開けて、たばこの煙を一瞬吐き出すと丸い輪ができますね。あれが渦輪なんです。

宮川 色もついていない渦輪の一瞬の衝突現象を、どうやってとらえるのですか。

簗田 色素レーザーを用いたシャドウ写真によって、渦輪中の空気の密度変化を光の影としてとらえ、解析します。百万分の一秒の世界なのですよ。

宮川 音源の運動を調べる方法はわかりましたが、音はどのようにして測定されるのですか。

簗田 マイクロホンを使って、振動波形として記録します。この波には方向性がありますので、一つの音について合計360回の測定を行って解析します。

宮川 実際の生活で私たちが聞いている音、例えばすきま風のようなピューピューという音と、先生の

# シリーズ 人物・いま (1)

—— 祝・永年勤続20年 ——

## 永年勤続20年にあたり思うこと

建築学科 教授 原田 克身

20年と言えば長いようですが、実は、昭和46年に赴任して、瞬時に20年が過ぎ去った感がします。赴任してまず興味を持ったのが、邪馬台国のことでした。邪馬台国は、当然筑後を中心とした有明海沿岸にあったであろう。短絡ではあるけれど、そう決めてしまいました。そうして平成元年、佐賀吉野ヶ里遺跡の発見がありました。もうすぐこの近くから、卑弥呼の径百余歩の墓が発見されるような気がしています。

次に、私が興味を持ったのが投げ網、押し網やクツゾコかきでした。昭和55年に萩尾から長洲へ移転しました。長洲へ移ってからも友人ができ、いつも3、4名で海に行くようになり、春はタコ、夏・秋はエビ、冬はタイラギをとりに行きます。わずか10数kmしか離れていないのに、大牟田と長洲にはいろいろな違いがあります。タイラギのことを長洲ではタテガイ、ケップのことをキャッポ、クツゾコのことをクチゾコ、押し網のことをモチアミ、クツゾコかきのことをネコンズキン、タオのことをエゴと言います。この違いは、福岡と熊本との文化圏の違いによるものと思われます。

終わりに、私の教育感の移り変わりを振り返ってみると、赴任当時、私は大学から来たものですから自分のプライドも含め、高専=短大の感覚で学生と接していました。ところが2、3年経つうちに、減茶苦茶な者が現れました。遊びは大学生並み、勉強は小学生以下で、脱落者が相次ぎました。これではいけない、やはり高専生は厳しく躰けなければと、きちんとやれ、素直になれ、謙虚さを忘れるなど、口を酸っぱくして言いました。その結果、気づいてみると自主性のない学生、反感を持っている学生が育っていました。

(全てではありません。)

どうか、自主性重視か。そこで、授業は2、3年前から演習主体の授業に切り替えました。クラブ活動においても、何から今まで、こちらで世話をやると必ずしも良い結果は生じないようです。学生一人一人が、自分で行うクラブ活動でないといけません。これからは、放任でない自主性尊重の教育を心がけたいと考えています。

これが私の20年です。コンピュータの発達。車社会の発展。私が、有明高専に赴任したとき生まれた高専生が卒業。いろいろありますが、とにかく、この私にたくさんなことを教えてくださった教職員、学生の皆さんに感謝いたします。

## 永年勤続20年にあたり思うこと

工業化学科 助教授 渡辺 徹



私は有明高専に昭和48年4月に着任しましたので、平成3年度で勤続18年になります。しかし、大学卒業後2年間、教務員を勤めましたので、公務員は20年間勤めしたことになり、平成3年11月22日に永年勤続表彰を受けました。

20年間勤続した今、教育という仕事は、複雑で奥行きがあるけれども、やりがいがあると思っています。

教務員時代、学生実験、卒業研究の説明、指導で大学3・4年生を対象に教えてきましたが、高専では、学生の年令層が16~20才と若く、最初は、多少、戸惑いを



感じました。

卒業研究は、大学4年で『低圧下の気液平衡測定と熱力学的健全性の検討』をテーマとして以来、その魅力にとりつかれ、今日までずっと継続していますが、現在では、『低圧下の気液平衡データの補正及び気液界面の物質移動機構の解明』に重点を移しています。研究とは、ある問題を解決すると、次から次へと新たに問題を生じてくるもので、一歩、一歩解決することに喜びを感じています。

また、53年に硬式テニス部で、四高専トーナメントの幹事をして準備に奔走したことや、53・54年に寮務主事補で、寮の運営や各行事に参加したことや、58年に担任として初めて、関西地区の研修旅行を計画し、引率したことなどが強く印象に残っています。

私は、学力には、学んで知ることはいうまでもなく大切で基礎になりますが、困難なことに出会ったとき、十分に力を發揮し、解決できる応用力や、創造力も含まれていて、大事だと思っています。高専の卒業研究、演習、実験、高専祭、体育祭などの幅広い教育が、これらの力を養うことを可能にしていると思います。

私にとって、勤続20年は、まだ折り返し点にすぎず、あと20年、全力を尽して頑張りたいと思います。

## 今、思うこと

共通専門(物理)助教授 宮川 英明



先日、永年勤続20年の表彰を受けた。有難いことだが、何が表彰に値するのか疑問だ。学校での教職員の方々の援助、多くの学生や卒業生との交流、家族の配慮があつてはじめて、曲がりなりにも教育や研究を続けてこられた。このことを改めて感じた表彰であった。

この20年間に多くの出会いがあった。私が尊敬し、師と仰ぐ先生が今も数名おられる。それらの先生方の生き方考え方導かれながら生活してきた。これらの先生方と出会えたことに感謝している。私はあまり読書をする方ではないが、活字から得た感動は大きく、本から学んだことも少なくない。これらの本もまた私の師である。

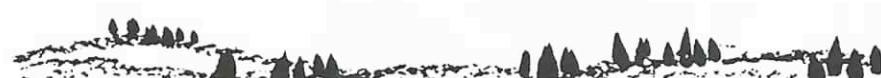
若者はいつの時代も素直である。エネルギーに満ち満ちている。高専5年間における学生諸君の成長には目を見張るものがある。目標を低くして受動的に生活する学生も目だつ中で、つらい境遇の中で、めげずに自分を磨いて卒業生も少なくない。彼らの成長は私たちの誇りであり喜びでもある。卒業することなく学校を去った学生には心が痛む。回り道をしたかも知れないが、彼らがどこかで活躍していることを祈る。

信頼関係のないところには感動も教育の成果も少ない。遠い道程ではあるが、謙虚に自分を高めつつ、学生諸君に体当たりしていくことが今後も私の課題である。いつまでも青年であり続けたい。

北原白秋に、

「真実、諦め、ただひとり、  
真実一路の旅をゆく。  
真実一路の旅なれど、  
真実、鈴ふり思ひ出す。」

という「巡礼」の詩がある。真実一路の旅であっても人間は迷う。自分を見失う。そこで鈴を鳴らして自分を取り戻し戒める。せめて鈴ふりを忘れないようにしたい。



# 卒業生の大学生活紹介

豊橋技術科学大学工学部

情報課程4年 森 武司  
(電気工学科23期生)

## 私の研究室



有明高専電気工学科を卒業し、この大学に入学して1年と9か月になります。大学生活紹介ということでこの原稿の依頼をうけたのですが、この大学はほとんど研究所といった感じの大学で、私の大学生活のほとんども研究についてやしています（それがすべてというわけではないのですが）。そういうわけで、今回は私が所属している研究室の紹介をしようと思います。

現在、私は並列計算システムの研究を行っている研究室に所属しています。私は、高専に在学している頃から計算機に興味がありました。そして最近では、次のようなことを思うようになりました。計算機は、将来シングルプロセッサからマルチプロセッサに移行するだろうということです。そういう理由から、この研究室を選びました。

私の研究室は指導教官が湯浅太一先生なので、湯浅研といわれます。湯浅先生は、Lisp処理系 KCL (Kyouto Common Lisp) やSchemeで有名な先生です。湯浅研は、現在次のような研究を行っています。 SIMD型並列計算機用のC言語コンパイラの開発、SIMD型並列計算機Maspar用の並列KCLの開発、PC-9801とEW S用の超小型Lisp処理系TUTSchemeの開発、共有メモリ型並列計算機PM3(仮称)の開発です。私は、この中の共有メモリ型並列計算機PM3(仮称)の開発に携わっています。私が担当しているのは、PM3上で実行される複数のプログラムとユーザとの対話をを行うためのユーザインターフェイスの開発です。私はその開発を、UNIXシステム上で実行されるXWindow-Systemを用いて行っています。これによってユーザは、PM3上で実行されている複数のプログラムとの対話を1つのディスプレイ上で行えるようになります。私はここ数か月、この研究に没頭しています。

湯浅研には約3台のワークステーションがあり、24時間稼動しています。それらの管理も研究室の学生で行っています。現在、湯浅研に所属している学生は15人います。ワークステーションは、研究室の人ならいつでも（朝4時でも）使えます。この大学では英語がかなり重要です。湯浅研でも、毎週1回計算機に関する（ソフトウェアを含めて）英語の論文を読んで、その内容を先生を含めて研究室の人全員に報告するということをします。

以上、私が所属している湯浅研について書いてみましたが、いかがでしたでしょうか。紹介したいことはまだあるのですが、紙面の都合上割愛させていただきます。ともかく、湯浅研は並列処理という最先端の研究をしています。今後この研究室を通して、並列処理についての知識をさらに深めたいと思っています。

# 卒業生の活躍状況

(株)竹中工務店  
富永龍志  
(建築学科12期生)

## 開閉式ドーム始動

昭和59年春、(株)竹中工務店に入社して、早や8年が過ぎようとしています。卒業以来、施工管理に従事していますが、現在の私の作業所福岡ドームについて、紹介いたします。

さて、建設業界はともかく、日本中から注目されている日本初の屋根開閉式多目的球場は、福岡ダイエーホークスのフランチャイズ球場として、シーサイドももち地区に計画実施され、そのフィールドは国際規格を満たした、最大級の野球場です。野球の他に、フットボール、コンサート等の利用にも対応できます。

その他、食事をしながらイベントを楽しめる、レストランやメンバーズルームも設けられております。

外観は、“現代のコロシアム”、そして、内部は、オペラハウスをイメージしてフィールドの周囲にメンバーズルームを2層半設けています。北西側は海に隣接しているので、昼夜を問わず博多湾の眺望を楽しむことができます。

現在、当作業所のメンバーは、設計・施工合わせて、約100名程です。そのうち、施工メンバーは、その6割ほどで、このプロジェクトに挑戦しています。

私は、屋根工事担当の1人で、昨年7月から、屋根仕上げ施工計画の業務に携わっています。

この屋根は、3つの屋根による回転移動方式とし、下段パネルが固定されており、中段、上段が回転します。全閉状態から全開状態まで2枚の可動屋根が約20分で移動し、全開状態の開口率は約60%です。1枚の重さが約4,000t、3枚で約12,000tにもなります。ジャンボジェット機に換算すると50機にあたるのです。

下段パネルは下部構造に固定されていますが、中段パネル、上段パネルは、それぞれ走行台車に支持されて外周部の走行路上を旋回移動します。中段、上段パネルは、それぞれ24台の走行台車によって支持されますが、そのうち各12台は電動自走式駆動台車とし、残りは従動台車で構成されています。中段、上段は、この走行路の6本の鋼製レールに沿って走行しますが、レール調整が、ここで10mあたり3mmの精度が要求されており、このプロジェクトの最大の難関と言っても過言ではありません。

着工から、10か月目に入り、外周の形はほぼ完成していますが、全工期24か月と、非常に厳しい工期の中で、設計施工一貫方式の利点を十分に生かすため、設計の段階から、施工性、省人化を考慮した複合化工法を採用し、施工段階では設計サイドにフィードバックすることで、更に品質、安全、工期及び生産性の向上を図らなければなりません。

このように、私が、今までの施工管理で行ってきたこととは、考え方、仕事の内容を1から勉強し直さなければなりません。最初の頃は、1つ進めば、2つ後退の連続でした。

これからも、まわりの諸先輩方のご指導を受け、また、自分自身のやる気、福岡ドームの1スタッフであるという誇りを持って、今まで、実施工事計画を行ってきた経験を生かして立派な作品を仕上げていきたいと思います。



右端が筆者

# 君たちは輝いていた

平成3年11月3日・4日 / 第18回高専祭

第18回高専祭が、11月3日(日)～4日(月)の2日間、全学生の企画・参加のもとに行われました。

テーマは、「高専維新」。現在の変革期にある高専を、ズバリ象徴したものです。その気運の現れとして、各科がそれぞれの専門分野を生かし、力を合わせて造りあげた、初めての試みである五科合同作品があります。

その他にも、多くの改革・工夫が随所にみられ、来校の約3,000人の方々とともに、「維新」の熱気を肌で感じ、満喫した2日間でした。



「WELCOME」「WELCOM」  
繰り返した回数、なんと3,000回!!



今年も弾けた「中夜祭」  
「クイズ王座決定戦」…T先生答える気あるの?



初の試み「五科合同受付」  
ぼくたちが有明の玄関です



「クイズ王座決定戦」  
この真剣さ…(まだ予選なのです)



「市中パレード」  
フフ…アンパンマン  
が誰だかわかるかな



有明のウグイスです



「自動車工学研究部作三輪バギー」  
ハイオク満タンでバクハツするぜ!!

## 第18回高専祭を終えて

高専祭実行委員長 工業学科5年 堀口晋市

第18回高専祭はいかがでしたか。

評判がなかなかよかったです。私もほっとしています。今年の良かった点、まずかった点を反省して、2年後の30周年記念高専祭を、素晴らしいものにしてください。必ず見にきます。

そして、中夜祭のコンテスト発表で、私が一生懸命考えたギャグをただ一人笑ってくれた4AのK君、どうもありがとうございました。

最後に、教職員の方々、各科団長、一年間ともに頑張った実行委員のみなさん、御協力本当にありがとうございました。

## 実行委員の一言

高専祭3日前まで全く無に近い状態でしたが、皆本当に力を合わせてよく頑張った。これも指導者Hくんの的確な指示と判断力のたまもの。

そして、夜遅くまでお世話してくださった主事室の先生方にお礼をいひたい。(副実行委員長 五科合同 5A 春山裕司)

横田君、芹川君、その他たくさんの人たちに支えられながら、高専祭最大のイベント、中夜祭も無事終えることができました。

全員で一つの目標に向かって進み、それを成功させることのすばらしさがわかりました。胸のなかの思い出の一ページとして、大切にしたいと思います。

どうもありがとうございました。(中夜祭 5M 中川英貴)

高専祭はいかがでしたか?お気に召していただけたでしょうか。

実行委員のみなさん、ほんとにご苦労されました。

最後に一言、「有明高専パンザイ」(書記 5C 境 麻紀・3C 土井律子)

11月2日、高専祭の宣伝のためパレードが行われました。少し肌寒いなか、みな元気よく大牟田の街を行進し、無事帰校することができました。

パレード参加者、先生方、どうも御協力ありがとうございました。(パレード 4C 栗田隆宏)

御機嫌いかがですか。高専祭の評判が良かつたので、ホッとしている副実行委員長の吉村です。

Mr.高専を真白い「ゴリラ」にもっていかれて、悔しいです。誰か、そのゴリラを捕まえて、オリに入れてください。野放しにしてはいけません。

手分けして、みんなで探そう。(副実行委員長 バザー 5C 吉村寿洋)

中夜祭を終えて、友人を数多く失った太田黒です。

しかし、高専祭では、自分のなかで何かが弾けたような気がします。

皆さんも、一緒に弾けませんか。(学生会長 5C 太田黒庸行)



「2A写真館」  
「高専維新」は「コウセンビジン」と  
読むのよ、ネ・ネ・キット(?)



「C科ミステリーガーデン」  
もしかして……3度目は、ピッグバン  
の瞬間に出会えるかも



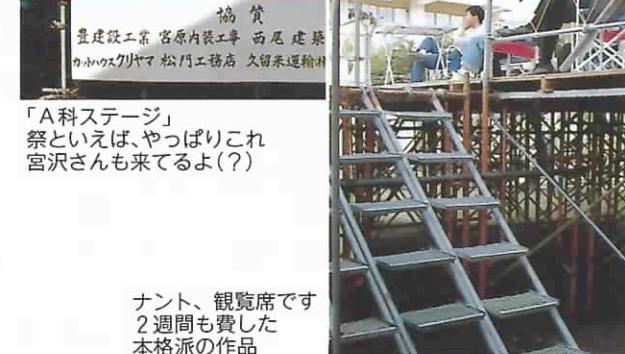
「21占い館」  
悩みにはカンケイなさそうなキミだって、  
もちろん来ていいのよ



「A科折り紙建築」  
気に入つたら、A科において…

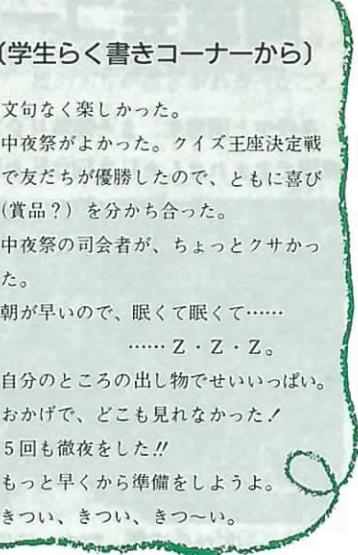


「バドミントン部  
フランス風だんご屋」  
へい、セニョール・  
セニョリータ!  
いとしのマチドゥル!  
ねえ、買ってねもなむ(???)



「A科ステージ」  
祭といえば、やっぱりこれ  
宮澤さんも来てるよ(?)

ナント、観覧席です  
2週間も費した  
本格派の作品



(学生らく書きコーナーから)

- 文句なく楽しかった。
- 中夜祭がよかったです。クイズ王座決定戦で友だちが優勝したので、ともに喜び(賞品?)を分かち合った。
- 中夜祭の司会者が、ちょっとクサかった。
- 朝が早いので、眠くて眠くて…… Z・Z・Z。
- 自分のところの出し物でせいいっぱい。おかげで、どこも見れなかった!
- 5回も徹夜をした!!
- もっと早くから準備をしようよ。きつい、きつい、きつい。

## 高専祭

## 文化講演

## 「生徒のやる気を引き出す指導法」

講師 大見 治夫 先生

今年の高専祭の文化講演には、大牟田高校駅伝部監督の大見先生を講師にお招きしました。

先生は、初冬の都大路を彩るあの全国高校駅伝大会に、10度の出場を果たされ、同校を3度の優勝、3度の準優勝に導かれています。

その先生のお話を一口でいえば、「心」ではなかったかと思われます。

自らの向上を願い、その可能性を激しく思う心。他を、自分のことのように優しく思いやる心。

それを先生は、「たすきの心」と表現されました。高く厳しい目標の設定。それは自分自身のためであり、同時に他（仲間）のためもある、ということなのです。その目標に向かって、一本のたすきに心を込め、全身全霊を込めて、他（仲間）に引き継ぐ。そのことが、駅伝の真髄であり、すべての目標達成



につながるものではないか、といわれるのです。

しかし、先生の立派な業績の裏には人知れないご苦労があり、曲折や挫折が幾度もあったということです。なかでも、昭和52年・53年の連続優勝から昭和63年の3度目の優勝までの間には、先生ご自身の自信過剰からくる周囲との齟齬が原因で極度の成績不振に陥られ、それを克服されたのが、部員の病死であったというお話には、身の引き締まる思いがしました。

そして、生徒のやる気を引き出すための方法として、生徒を大空高く舞い上がる「帆」に例え、大空が生徒の希望であり、夢であり、「糸」又は「糸を操る人」を父母あるいは監督（教諭）に例え、お互いの信頼の「心」がそれを引き出す鍵になるのではないか、と結ばれました。

（平成3年12月22日、全国高校駅伝大会V4達成、おめでとうございました。）

## 高専祭

## 同窓会コーナー

在校生と同窓生、また地域社会との交流の場が高専祭で生まれました。今回は、森田繁光氏（A2期



左から江藤、宮本、染田の各氏

生、(株)コンウッド経営）、脇嘉樹氏（A2期生、脇建設（株）経営）より展示パネルを、またダイダン（株）より照明器具を寄贈いただき、図書館一階にブースを設けました。

当日は、3名のパネラー、江藤憲吾氏（M12期生、九州三菱自動車販売（株）勤務）、宮本恭祐氏（E16期生、（株）安川電機勤務）、染田寿稔氏（A5期生、（株）人建築設計事務所勤務）をお招きし、展示物を含め卒業後の3氏3様の生きざま、日頃取り組んでおられる興味深い仕事の一部を披露してもらうセミナーを開催しました。

これらの関係各位に感謝し、皆様と同窓会との交流が更に密になることを祈念します。

（記 同窓会会长 重村 栄）

## 有明高専に編入学して



工業化学科4年  
今福信嘉  
(伊万里高校卒業)



建築学科4年  
齊藤理子  
(熊本工業高校卒業)

あなたは、普通高校からの編入学制度の最初の学生として、平成3年4月1日に工業化学科に入られましたが、志望動機は何だったのでしょうか。

中学卒業時に佐世保高専に行きたかったのですが、同校の入試日と中学の行事が重なって受験出来ませんでした。本校の編入学制度が出来て好都合でした。

入学してとまどったことはありますか。

実験は班単位でやったので級友に教えてもらえて出来ましたが、報告書をどこまで書けばいいのか分からず、とまどいました。

普通高校から編入学して都合の良かった点はどんなことがありますか。

一般教科関係は高校で良く勉強してましたので、困らないと思います。

専門教科はどうですか。

高校のとき、理科は好きでしたし、その中で化学は特に好きでした。化学は21世紀に飛躍すると思います。

補習はいかがでしたか。

何とか分かりました。これから復習したいです。

寮生活はいかがですか。

工業高校からの編入学生である級友と同室で、実験のことを教えてもらえるとか好都合のことも多いです。楽しくやってます。

今福君には本校の普通高校からの最初の編入学生として期待がありますので、これからも頑張ってください。本日はありがとうございました。

（聞き手 辻直孝）

あなたは、平成3年4月1日に熊本工業高校から本校に編入学されましたか、本校に編入学しようと思った理由・動機は――

小学校の頃からずっと建築に興味をもっていました。高校の建築学科で建築に関する学びましたが、それでは物足りなく、建築の知識を早くそして深く身につけたいから受験しました。

本校に編入学した頃の印象は――

校内が高校と比べると狭いと感じました。みんないろいろの服装をしていておもしろいと思いました。テキストをはじめてあけたとき今までと違って文字が小さく、専門書だと思いました。講義は専門だけあって難しいものもありますが、難しいほどやりがいができます。

本校に編入学して良かったことは――

今まで以上に友達がたくさんできました。また建築に関する勉強が深くできました。そして、現在アパートで一人暮らしをして、何でも自分でやらなければならぬないので、親のありがたさがわかったこと。親に感謝しています、本当に。

9ヶ月が過ぎて、思うことは――

校則や規則が厳しいと思います。高校生ではないので1~3年とは区別してほしい。大学とは違って朝から夕方まで授業がぎっしりつまって、自由な時間がないので、やりたいこと例えば、好きな建築の専門書や雑誌を見ることがあまりできない。設計製図の課題はすこしきついと思います。

今日はありがとうございました。これからも頑張ってください。

（聞き手 松岡高弘）

## —プログラミングコンテスト— 優秀賞に輝く—

平成3年11月3日、大分市において第2回全国高専プログラミングコンテストが行われました。予選を通過した本校電気工学科4年生のチームが参加し、課題(CAI)部門において優秀賞(第2位)を受賞しました。

プログラムの作成に当たった5名の諸君に、話を聞いてみました。

入賞したプログラムはどんなプログラムですか。

ドラゴンクエストのようなゲーム型のCAIソフトを、簡単に作るためのソフトです。今回はサンプルとして、中学地理のCAIを作りました。



5人の役割分担はどのようにしたのですか。

メインプログラムとグラフィックを丸山、シナリオプログラムとマップの原形を田上、問題データとマップの修正を前川、問題データを近藤、芝原で分担しました。

苦労したのはどのような点ですか。

時間が足りなかったことと、技術不足のためプログラムが上手く組めなかったことです。次回は第1位の最優秀賞を目指して頑張りたいと思っています。



前列左から丸山君、田上君  
後列左から近藤君、芝原君、前川君、松野助教授

## ロボットコンテスト 無念の記



左から太田黒君(4M)、七條君、荒巻君、三坂君(以上5M)

全国大会に出場しての感想を一言

全国の高専の人と会え、いい経験をしました。

全国大会に出場した5Mチームの「はこもていー」について

いいマシンだったけど、相手の方が上だったということで、負けるべき相手に負けたという感じです。

心残りの点、また、後輩に望むことは

自分達は2回戦敗退だったけど、よいマシンを作り、是非全国優勝を目指して欲しい。

地区大会について

有明も久留米も、いいマシンでした。全国レベルだと思います。でも、上には上がりました。全国大会には進めなかったけれど、4Mチームの「ぶつとべ大吾郎号」の方も、同レベルの完成度を持って

いたと思います。

製作はいつ頃から。苦労した点、工夫した点は7月末から、夏休み返上で3ヶ月もかかりました。

苦労した点は、全部です。特に、動き出すまでが一番大変でした。工夫した点は、軽さと速さと、いかに制御をするか、ということでした。

いいたいことは

ルールの変更は慎重にして欲しいということと、実力があれば、同じ高専から2台とも全国大会にかけるというふうにして欲しいです。

勿論、来年も、目標は全国優勝です。



九州地区大会 「はこもていー」対  
「ぶつとべ大吾郎号」の有明対決

## 吹奏楽部 第23回定期演奏会を終えて

本校吹奏楽部は、去る2月1日(土)、午後6:00より大牟田文化会館大ホールにて、第23回定期演奏会を開催いたしました。

当日は、みぞれが降るあいにくの天候でしたが、本校教職員、学生をはじめ、一般市民の方々にも多数御来場いただき、無事終了することができました。

今年は1部・オリジナル、2部・クラシック、3部・ポピュラーの3部構成とし、それぞれに個性的な指揮者を得て、おおむね好評でした。

最後に、本演奏会開催にあたり御尽力くださった方々に、部員一同、心より御礼申し上げます。



## 学生会指導者研修

10月下旬の学生会選挙で学生会長に当選した塚本正彦君により指名された学生会役員が、学生総会で承認され、新しい学生会が発足しました。

その新役員20名が、12月7日・8日に大牟田ハイツで一泊研修を行いました。

7日午後、レクリエーションのソフトボールを楽しんだ後、夜、新役員としての抱負を語り、学生会活動や来年度の行事予定について、活発な討議や検討を行いました。

## 冬季球技大会

建築学科4年 佐藤一政

今回(11月29日)の冬季球技大会は、新しく女子種目を試みるつもりでしたが、前日からの雨のため、残念ながら室内種目となってしまいました。しかし、全てのクラスが、競技をわきあいあいと楽しみながらも、一丸となって勝利にむかって頑張りました。

今回は女子種目は実現しませんでしたが、これから球技大会でも女子種目を企画していますので、

女子学生の皆さんも、男子学生に負けないぐらい積極的に参加し、楽しんでください。

## 九州地区高専体育大会 ラグビーフットボール大会

工業化学科5年 野澤智司



自主トレのときある人に言われた。過去に全国大会未出場はラグビー部だけだ、と。ぼくらは悲しかった。万年部員不足が弱さの原因とは思わない。

夏合宿。全員が同じ所を何度も走った。終わりがなかった。

秋・本番。不安がつのる。2回も大敗した相手だ。

試合開始。誰もタックルをさばらない。怖くない。0-12で折り返す。後半、ドロップゴール、トライが決まり、スクラムが粘る。誰かがタックルにいった。

でも負けた。全国大会に行きたいから、また今日から走る。

(11月17日、熊本県民総合運動公園ラグビー場

1回戦 有明9-16八代)

## 体育系クラブリーダー研修会

1月11日、体育系クラブの新しいキャプテン、副キャプテンに対し、クラブリーダー研修会が行われました。

まず、大牟田高校の大見先生の講演が行われ、統いて学生と顧問に分かれての分科会を行いました。

学生の分科会では、リーダーとしてのあり方やクラブの運営などについて、活発な議論がなされました。

そして、最後に全体会で会のまとめを行いました。

—・シリーズ・  
クラブ紹介(1)

天文部&高周波研究部  
(相互インタビュー)



インタビュー 左・上藤さん、右・立野君 時間の経つのも忘れて

〈天文部の巻〉

インタビュア 立野勝巳(高周波研究部)

どういうクラブですか?

上藤 放課後、観測をしたり、勉強会をしたり、とにかくみんなで楽しくやろうというクラブです。女の子が多く、明るいところです。



〈高周波研究部の巻〉

インタビュア 上藤史子(天文部)

主な活動は?

立野 いまは、高周波通信という新聞をつくることが主ですが、本来は無線のクラブです。(笑) 無線機でただ話すだけではなく、送信機をつくったり、電子工作をします。高専祭では、“空中で光る螢光灯”をつくりました。

クラブの雰囲気は?

辻 部長が、一人でやってるって感じですね。(笑)

活動場所は?

立野 一般棟屋上です。部室はありません。電波を飛ばすため、屋上にプレハブが欲しいんですけれど……。工作的ときは、電気工学科棟の2階でやって

クラブの雰囲気は?

木村 先輩が少なく、私たち1年生の方が結構いいことしてるって感じですが、やっぱりここってところは、先輩がピシッと決めてくれます。(笑)

観測以外での活動は?

上藤 久留米の青少年科学館で、月1回ぐらい手伝いをしています。ここには明善高校天文部やアマチュアの方などもみえ、情報交換もやっています。

これから手がけたいことは?

北野 太陽の黒点観測など、やってみたいですね。

天文部のPRを

上藤 望遠鏡が2台、双眼鏡が1台、カメラが2台で、結構いい機材がそろっています。皆さん、遊びにくるだけでもいいから、一度、是非天文部を覗いてみてください。

います。

上級生ばかりですが、これからどうなりますか?

立野 留学生の林さんを始め、3年生5人が加わり、殆どが免許を持っているので、大丈夫です。

高周波研究部のPRを

立野 近く、送受信機をつくりたいと思っています。ハンダごてを持って電子工作したい人、興味のある人は、是非来てください。



—・シリーズ・  
中学校訪問(1)

勝立中学校(大牟田市)

中学校訪問を、シリーズで始めることになりました。トップバッターとして、本校に最も近い勝立中学校を選び、早速校長の町田光弘先生を訪ねました。

(聞き手 新谷 肇一)

勝立中学校の概要をお教えください。

町田 昭和22年に、大牟田市で4番目の中学校として創立されました。ピーク時には36クラス1,663名を擁していましたが、石炭産業の縮小で徐々に生徒数が減り、現在11クラス382名の規模になっています。

勝立中学校の特徴についてお聞かせください。

町田 山に囲まれた高台にあり、市内で最も自然環境に恵まれた地にあることです。

もう一つは、地域とのつながりが非常に強いことです。昭和55~56年頃、本校が一時荒れた時期がありました。父母や地域の力を借り、一緒にその困難を乗り切ったことに起因しています。そういう経緯から、学校も地域のことには常に協力を惜しませんが、そのことによって、地域も学校を支えてくれます。



生徒会活動などについてお聞かせください。

町田 生徒会活動に「こだま班活動」というのがあります。生徒たちが毎朝輪番で校庭に立ち、教師も参加して、朝の挨拶運動を自主的に行うのです。こ



小鳥の鳴りも聞こえる佇まい

れも、先の困難な時期を克服するために発案されたものです。

体育祭なども、先生の指導を受け、生徒会が自主的にとり組みます。クラブ活動では、夏の大会で野球部が優勝し、新人大会ではバレー部が男女のアベック優勝をなし遂げました。

有明高専について、先生方や生徒たちはどのような印象をお持ちでしょうか。

町田 高専が創られた頃は非常に高い評価を受けており、質の高い生徒が受験していたと記憶しています。が、学校側の対応は冷たいというか、それほどよい印象のものではありませんでした。

しかし最近は、ずい分開かれた学校にしようとの努力がなされていると思います。学校説明会の開催、中学校訪問の実施など、その表れだと思います。

生徒の立場から見た場合は、自分の進路をきちんと見定められる者には、大変適した学校だと思います。

最後に、有明高専に対する要望などがありましたらお聞かせください。

町田 大牟田の地に有明高専があることは、誇りです。そこで、もっと市や地域に対して、高専をアピールされる必要があります。そのためには、有明高専として市民的行事に参加したり、技術的な面での地域に対する貢献、援助ということが重要ではないかと思われます。

本日はお忙しいところ、貴重なお話を聞かせいただき、ありがとうございました。

# 学生会だより

## 会長挨拶

電気工学科4年 塚本正彦

この度、学生会長になりました電気工学科4年塚本正彦です。名前と顔は、もう覚えていただけたでしょうか。球技大会のときに行われました学生総会で、私が指名した役員を、皆様に承認していただきましてありがとうございました。承認の拍手をいただいたときは本当にうれしく、また、改めて自分の立場の大切さ、責任の重さをずしりと感じました。学生会役員も去年に劣らないような、しっかりしたメンバーが揃いました。これから、1年間よろしくお願ひいたします。

人の上に立つには、人格、能力、健康の3つが必要と言われています。人格が悪ければ、人はつきません。能力がなければ、人は動かせません。また、健康でなければ、話しにもなりません。そこで、今の自分を振り返ってみたところ、唯一、健康しか見あたらないような気がします。また、太田黒前会長と比べましても、創造力、決断力、指導力、その他、何をとっても上回れるものがないかも知れません。が、向上心を持ち、何事にも積極的に、かつ、必死に取り組んでいきます。今は、いろいろとあまり偉そうに大きな声で言いません（言えません）。が、しかし、これから私の見ていてください。

自分の目標としましては、この変わりつつある高専を、一部のものだけでなく、学生全員で動かすことが出来れば、と思っています。たとえば学校の美化、挨拶という誰でも簡単にできることを学生全員でやってみたいなと思っています。

この誰でも手にすることのできる、きれいな学校、挨拶を交わす気持ちのよい空間という宝はなかなか得ることができません。それは、見つけられないのではなく、見つけようとしないからだと思います。一部の人だけがいくら探しても、出てくるものではないと思います。

なにはともあれ、宝探しにしても、何かを成し遂げるにしても、学生会の活動は、第一に皆さんの協力が必要になります。学生会も一丸となって頑張ります。しかし、活動していく中で不備な点も出てくるかと思います。しかし、そのときは、皆さんの御指摘、御協力をよろしくお願ひいたします。これから、皆さんと共に、いろいろな宝を探し出したいものです。

## 学生会新役員

学生会長	塚本 正彦 (4 E)
副会長	芹川 祐二 (4 E)
	吉田 一広 (4 A)
書記	野元 一宏 (4 E)
会計	進藤 俊喜 (4 M)
文化局	山部 哲範 (3 M)
文化局	梶原 淳 (3 E)
文化局	中村 敏孝 (4 M)
文化局	大里 浩幸 (3 C)
体育局	佐藤 一政 (4 A)
体育局	副局長 龍野 義栄 (3 M)
体育局	補佐 奥蘭 剛 (2 M)
風紀局	前田 豊 (4 C)
風紀局	副局長 武下 浩紹 (3 M)
風紀局	副局長 古賀 久美 (3 I)
整備局	秋山 武彦 (4 C)
整備局	立石 健一 (3 I)
報道局	坂本 美鈴 (4 A)
報道局	局長 安川 瞳 (4 A)
報道局	副局長 野崎 達志 (3 A)



3列 塚本さん、古賀さん、中村君、吉田君、立石君、進藤君、安川君

2列 奥蘭君、龍野君、大里君、前田君、芹川君、佐藤君、野崎君

1列 秋山君、竹下君、梶原君、塚本君、野元君、山部君  
(いずれも左から)

# 学寮だより

## 新寮長になって

建築学科4年 北原 健

今まででは寮長というものに対して、離れたところから傍観的に考えていたことが、今度は主体的に考えねばならなくなり、とても大変です。まず自分自身で考え、そして先生方や皆さんからも意見を聞き、協力してもらいながら精いっぱい頑張っていこうと思います。

自分は、今よい方向に向かっている中の、1ステップの礎になればいいと思っています。これからの協力とご声援をお願いします。

## 寮祭

建築学科3年 武田真樹

11月30日夜、岱明寮に於て、寮祭が行われました。今回の司会をしてくれたのは3Aの川口君、小野田君の二人で、寮祭の間、ずーと見物人を退屈させずにユーモアのある話術で笑わせてくれました。

では、その中のいくつかを紹介しましょう。我慢大会は初めての試みで、氷を入れたバケツの中に足を突っ込んだり、顔を浸けたりして我慢を競うもので、実は私も参加したのですが、いま思い出してもぞーとします。我慢の2A岡君が見事優勝しました。

恒例の主事室タイムは、今年も建築学科北岡先生作詞「おどる岱明寮」を歌われました。北岡先生が歌い、三戸先生が盛り上げます。ちょっと歌を聞いてみましょう。「門限忘れ出歩くよ……深夜に風呂で泳ぐは……行事のあとはビール缶……主事室はなんでも知っている」、うーん、寮生のことはなんでも知っているといいたいような歌ですね。でも寮生の方の意見はいかがでしょうか。

次は1、2年生が行うパフォーマンスです。3チ

ーム出場し、いずれも頭を絞った出し物でしたが、みんなの爆笑を誘った芸で1年生若葉棟Bチームが優勝しました。同時にこのチームから大型ルーキーが生まれました。1Aの渋谷君です。



ルーキー誕生!!  
世紀の  
エンターテイナー  
をめざす



寮祭もいよいよ終盤です。宝くじの抽選が行われ、私は特賞に当たり、立派な賞品をもらって、嬉しくてたまりませんでした。

最後は「本物を食ったのは誰だ」です。これは5人でチームを組み2方に分かれて、それぞれがジュースを飲んだり、サンドイッチを食べたりするのですが、その中の一つにカラシが入っていて、それを食べたのは誰か、相手のチームが当てるゲームです。双方、相手をだまそうと必死な表情をしていたのが面白く思い出されます。こうして、今年は先生方もゲームに参加していただき、楽しい寮祭を終わりました。

## その他の寮の行事

平成 3 年 12 月 1 日 新寮長選挙

12月 3 日 消火訓練

12月 9 日 避難訓練

平成 4 年 1 月 26 日 寮生球技大会、成人祝賀会

1月 28 日 給食懇談会

2月 8 日 5年寮生送別行事

2月 26 日 寮生保護者役員会

## &gt;&gt;&gt; 卒業予定者の進路一覧 &lt;&lt;&lt;

## 機械工学科

阿部 満朗	三菱電機(株)	猿渡 研一	九州不二サッシ(株)
荒巻 千年	日本電気ホームエレクトロニクス(株)	七條 友明	日産自動車(株)
家永 新也	自営業	杉内 勝弘	(株)三井ハイテック
井形 智也	トヨーサッシ工業(株)	瀬上 秀広	川崎重工業(株)
石橋 英規	日鐵プラント設計(株)	高田 賢児	トヨタ自動車(株)
大津 俊一	N T T データ通信(株)	富重 吉史	(株)ニチゾウテック
大渕 裕輔	長岡技術科学大学工学部 機械システム課程	中川 英貴	キリンビール(株)
岡本 寛	マツダ(株)	林田 和男	東京エレクトロン九州(株)
金崎 憲一郎	ダイキン工業(株)	本田 孝博	日本酸素(株)
川島 謙次	三菱重工業(株) 広島製作所	前川 和憲	豊橋技術科学大学工学部 生産システム課程
河野 健一	(株)メイテック	松岡 秀之	旭化成工業(株)
川本 康之	三菱電機ビルテクノサービス(株)	松野 真也	京セラ(株)
九郎丸 善和	豊橋技術科学大学工学部 生産システム課程	松藤 彰	山九(株)
古賀 弘之	旭精機工業(株)	松本 孝久	九州日本電気通信システム(株)
小島 寛史	三菱電機セミコンダクタソフトウェア(株)	三坂 直行	三菱重工業(株) 長崎造船所
近藤 孝洋	三井東圧化学(株)	宮川 岳志	九州松下電器(株)
境和久	三菱プレシジョン(株)	森 知章	日本デジタルイクリップメント(株)
坂井 慎介		雪野 竜也	凸版印刷(株)
坂口 修司	日本航空(株)	和田 善郎	トヨタ自動車九州(株)
佐多 博文	(株)富士通九州システムエンジニアリング		

## 電気工学科

諫山 正剛	(株)Y E ドライブ	立野 勝巳	九州工業大学 情報工学部電子情報工学科
石川 淳也	大電(株)	塚本 豊	(株)九電工
稻田 誠司	安川プラントエンジニアリング(株)	辻淳也	東芝エンジニアリング(株)
岡秀樹	N T T データ通信(株)	寺尾 裕二	富士通(株)
岡村 尚幸	豊橋技術科学大学工学部 電気・電子工学課程	寺本 和生	東京エレクトロン九州(株)
岡山 昌雄	出光興産(株)	中川 功	豊橋技術科学大学工学部 電気・電子工学課程
兼武 徹治	西部電機(株)	長岡 信行	東芝A V E(株)
河野 雅一	東陶機器(株)	西村 勝久	日本ビクター(株)
河野 将樹	三菱重工(株)	弘島 晃	富士通九州システムエンジニアリング(株)
河野 光貴	東芝マイクロエレクトロニクス(株)	福原 和矢	三菱電機(株)
川部 正重	九州松下電器(株)	堀切 正人	ローム(株)
神原 幸治	富士通九州デジタルテクノロジー(株)	前川 圭祐	九州旅客鉄道(株)
古賀 雅治	九州電力(株)	牟田 理	東京ガス(株)
小平 裕司	(株)東芝	森克之	(株)安川電機
後藤 誠也	(株)大気社	森嶋 清敏	日本たばこ産業(株)
坂典行	九州ナショナル設備機器(株)	森田 真吾	日本ユニシス(株)
猿渡 裕	九州不二サッシ(株)	山下 真司	三菱ビルテクノサービス(株)
高村 喜威	(株)富士通テン	吉村 隆	日本電気(株)
田尻 雅大	九州電機製造(株)		

## &gt;&gt;&gt; 卒業予定者の進路一覧 &lt;&lt;&lt;

## 工業化学科

青山 ひとみ	ナイガイ(株)	堤 幸治	直方東芝エレクトロニクス(株)
荒巻 保光	チッソ(株)	中原 慎剛	日立造船(株)
石井 康夫	(株)香蘭社	中村 修	山口大学工学部 工業化学科
石橋 友加	東レ(株)	新村 幸凡	旭硝子(株)
伊藤 正徳	出光石油化学(株)	西島 良介	九州工業大学情報工学部 生物化学システム工学科
太田 黒庸行	九州工業大学工学部 応用化学科	野澤 智司	日本たばこ産業(株)
木下 雅貴	(株)九州I N A X	長谷川 健	アポロ電子工業(株)
木原 敦	旭化成(株)	日卷 孝廣	福岡トヨーサッシ(株)
木本 吉昭	日本触媒化学(株)	平田 光司	出光興産(株)
古財 台維	大興電子通信(株)	堀口 晋市	新日鐵化学(株)
境 麻紀	三井東圧化学(株) 総研	松下 信幸	(株)三岩エンジニアリング
坂口 修	(株)テクノ菱和	松田 孝則	千代田工商(株)
坂口 博一	住友金属工業(株)	松本 崇	鐘淵化学工業(株)
下村 義宏	京セラ(株)	丸山 洋喜	ダイキン工業(株)
高見 さお子	豊橋技術科学大学工学部 物質工学課程	横江 亜希子	ユニチカ(株)
樋岡 聖秀	日立化成(株)	横溝 亮紀	九州不二サッシ(株)
田中 芳明	(株)九州ノゲデン	吉村 寿洋	三井東圧化学(株) 総研
土永 和弘	武田薬品(株)		

## 建築学科

有富 和歌子	日本下水道事業団	西尾 正和	植産住宅相互(株)
今福 貴彦	東陶機器(株)	野田 真吾	(株)間組
今村 浩一郎	(株)フジタ	花田 啓子	大成建設(株)
江上 美智子	日本総合メンテナンス(株)	林 真吾	戸田建設(株)
江越 正博	産研設備設計事務所	春山 裕司	前田建設工業(株)
大笹 優子	共同建築設計事務所	久田 功	西松建設(株)
大野 弘子	福岡市役所	姫野 達雄	(株)竹中工務店
大本 康隆	(株)大林組	平山 敬三	新菱冷熱工業(株)
岡村 英樹	三菱重工業(株)	松門 武	自営業
久保 達也	日本鉱業(株)	松永 徹	西部ガス(株)
久米 健一	(株)鴻池組	三隅 直子	大和ハウス工業(株)
古瀬 秀幸	サンコーコンサルタント(株)	宮原 義明	(株)神原雄商
酒井 一義	(株)熊谷組	村上 和世	三井ホーム(株)
佐藤 裕次郎	九州旅客鉄道(株)	八尋 耕亮	豊橋技術科学大学工学部 建設工学課程
塩田 和晃	西日本旅客鉄道(株)	山田 恵美子	自営業
高木 香	西部ガスリビング販売(株)	山田 信二	新日本製鐵(株)
田中 陽子	佐藤工業(株)	山田 竜一	住友金属工業(株)
中尾 友美	日本電信電話(株)	若藤 達也	清水建設(株)

# 入試説明会好評！ 712名が参加

10月19日(土)と26日(土)の2日間、入試説明会・校内見学会が開催されました。

先生方の近隣中学訪問とともに、15才人口が減少するなかで、中学生に本校をより深く理解してもらうために実施しています。

今年は台風の影響で、例年より参加校、参加者ともに減少しましたが、両日とも快晴で、福岡・熊本県の376中学から、712名に集まつてもらいました。



力のこもる展示説明

各学科は、それぞれの専門分野を理解してもらうために、工夫を凝らした展示、デモなど、熱っぽいピアールを行いました。

内容は、約50分の入試説明、1時間40分の学科見学というものでしたが、中学生にとっては少々強行軍であったかも知れません。

今年は、引率、展示説明を学生諸君にお願いしましたが、テキパキした行動は、大変好評でした。

また、見学コースの最後に相談コーナーを設け、各学科主任が中学生や保護者の疑問、質問に応待しましたが、多数の真剣な質問が寄せられました。

## 〈Q & A〉から

入試説明会当日、中学生の声などをインターにより拾ってみました。

質問事項は、「説明会の感想はいかがでしたか?」、「有明高専で勉強してみたいですか?」、「どんな

ことに興味をもちましたか?」などでしたが、つぎのような多くの反応がありました。

### 〈中学生・保護者・引率の先生〉

- ロボットコンテストに出たい。(中学生・男)
- 自動車エンジンの勉強をしたい。(中学生・女)
- 両親に、すてきな家を建ててあげたい。(中学生・女)
- 見学会に来るまでは迷っていたが、来てみて入学の決心がついた。(中学生・男)
- 敷地が広く、設備の立派なことに驚いた。是非こういう環境で勉強させたい。(保護者)
- 子供たちに、自信をもって勧められる学校との認識を新たにした。(引率の先生)

### 〈展示説明等従事学生・相談コーナー教官〉

- 限られた時間での説明は難しかった。(学生)
- もっと多くの質問を期待していた。(学生)
- 化学実験では、目が輝いていた。(学生)
- 建築のことをわかつてもらえたと思う。(学生)
- いい後輩たちに来てもらいたい。(学生)
- 女子が多くなった。制服についての質問が多くかった。(教官)
- 偏差値についての質問が多かった。(教官)
- 真面目な質問が多く、真剣を感じた。(教官)



「とても、いい印象でした」

## (資格試験等合格者)

### 平成3年度秋期 情報処理技術者試験合格者

学科	氏名
第2種	3 E 中内 晃弘

### 第22回工業英語検定試験合格者

学科	氏名	学科	氏名	学科	氏名
5 E	立野 勝巳		別府 賢治		石口 裕子
3 I	小平 裕司		尋木 信一		樺藤 正
3 M	下川 忠弘		坂田 健一		瀧崎 隆司
2 M	古賀 朋広		宮部 紗子		渡辺 浩司
	雪野 竹志		大国 賢一		吉永 享
	西村 周二		畠山 陽子		大園 真樹
4 級	中嶋 政彦		井上 知江		阿部 嘉浩
	江頭 征謙		松本 陽一		近藤 洋文

# ▶新任教職員紹介◀

## 新しい第一歩



機械工学科助手  
**貝田 正 實**

平成4年1月1日付で、縁あって本校に籍することになりました。約40年間民間企業のみ歩いて参りました。黒から白、即ち石炭からアルミニウム、そして今回は180°転換の職場に勤めることになり、充分その責務を果たせるか、身の引き締る思いで一杯です。

この激動する現在の環境の中で、どうすれば人類が共存繁栄出来るかが最も問われているときと理解している一人です。どの分野においても、絶えず現状の維持ではなく、打破を理念とすることこそが進歩の源と信じています。この大変なときに立ちつくす若い人たちに、少しでも役立つことが出来るなら大きな喜びです。私も一緒にチャレンジすることしました。

微力ですが頑張ります。よろしくお願いします。



長崎県島原出身  
共通専門(数学)助手  
**本田 龍 広**

平成3年4月に非常勤講師として赴任し、10月に助手として着任しました。大牟田とは有明海を隔てた島原の出身です。今や、世間を搖るがす雲仙岳のために、一躍全国の注目の的になってしまいました。ここ対岸にも影響が出ているようです。自分の故郷が灰色に染まる光景をテレビ、新聞、さらにこの瞳で見ても、"嘘だ!!" とまだ信じられないし、信じたくないものです。

鈍色の枯木絶えなく つめの跡

故郷のことを胸に秘め、私は、その信用を失墜させることなく、研究と修養に努めようと思います。

## 下宿主懇談会

10月22日、下宿主との懇談会が行われました。10月現在、自宅あるいは寮以外に居住している学生が42名(内、11名が女子)います。親類の所に寄宿している2名を除けば、あとの40名が16の下宿、アパート、借家に居住しています。

当日、7名の方が出席なさって、学生の日頃の動向やご苦労をこもごも語ってくださいました。それによると、おおむね真面目にやっている様子なので、学校としても安心した次第です。

## バイク実技講習会

11月12日、今年度のバイク実技講習会が、大牟田警察署、大牟田地区二輪車安全普及協会の指導のもとに、本校で実施されました。参加学生は、1~3年のバイク通学生と事故・違反を起こした4、5年生の129名でした。

また、これとは別に今年度新規バイク通学生を対象としたバイク実技講習会も、11月30日と12月14日の両日に荒尾第二自動車学校において行われました。

バイク通学生は、これらの指導を生かして安全運転を心がけてください。

## 平成4年度入学志願者状況 837名が応募(うち、女子141名)

学科名	定員	志願者(カッコ内は女子内数)	倍率
機械工学科	40	200 ( 6 )	5.0
電気工学科	40	165 ( 5 )	4.1
電子情報工学科	40	170 ( 45 )	4.3
工業化学科	40	109 ( 27 )	2.7
建築学科	40	193 ( 58 )	4.8
計	200	837 ( 141 )	4.2

## 来年度、女子学生寮の新設決まる

ここ数年来、本校では女子学生の入学が急増しており、遠隔地からの入学志願学生に対して、その就学環境を整備するため、女子学生寮の設置が強く望まれていました。

本校としても、各年度の概算要求の最重点事項として女子学生寮建設に取り組んでいましたが、このほど、その設置が認められ、来年度末までには竣工し、平成5年4月からの入寮が可能になる予定です。

本冊子中 M・E……などあるのは、次の学科を意味するものです。

M(機械工学科)、E(電気工学科)、I(電子情報工学科)、C(工業化学科)、A(建築学科)

# ▲▲行事予定▲▲

- 3月4日～9日 学年末試験(1～4年)
- 3月9日 終業式
- 3月18日 卒業式
- 3月31日～4月6日 体育系クラブ春季合宿
- 4月6日～7日 寄生指導者研修会
- 4月8日 始業式
- 4月9日 入学式・入寮式
- 4月10日 新入生校内オリエンテーション  
新入寮生歓迎夕食会
- 4月14日～16日 新入生オリエンテーション(阿蘇)
- 4月20日 開校記念日・寮生球技大会
- 4月24日 新入生歓迎遠足
- 5月13日～16日 4年生研修旅行
- 5月28日 春季球技大会
- 6月11日～17日 前期中間試験
- 7月16日 保護者懇談会
- 7月17日～19日 九州地区高専体育大会
- 7月21日～8月31日 夏季休業
- 7月29日 4高専合同演奏会
- 8月22日～23日 全国高専体育大会



登・下校風景

## 編◆集◆後◆記

- あわただしい、学年末の時期になりました。
- 新企画第2号の、有明高専だより第77号をお届けします。
- 前号から、スタイルの変更（「縦書きから横書きへ」、「一部カラー写真の使用」）をし、内容も、「読みやすく」、「面白く」、できれば「役に立つ」広報誌にしたい…と、試みています。
- 今号の編集には、前号に対するアンケートに寄せられた多くの方々の意見を参考にして、座談会、インタビュー等、委員会が「取材する」方式もとり入れ、記事の内容、字句等にも気を配って、さらに読みやすいものを、と努力しました。
- しかし、印刷発注を目前にしての現在は、「わからない、難しい。」の一言です。
- とはいえ、高専だよりは、みんなの力を借りて作り上げればいいのだ、と思い直すと、少しは気楽になりました。
- 今回もアンケートを実施し、次号の参考にさせていただきたいと思います。是非、ご協力をお願いします。
- また、新鮮な高専だよりに育てていくため、学校のあり方等に対する建設的な意見の投稿をお待ちします。
- ご多忙中にもかかわらず、高専だよりの編集にご協力いただきました方々に、厚くお礼申し上げます。
- 最後になりましたが、卒業生諸君、高く、高く、高くはばたいてください。 good luck !

有明高専だより 第77号

平成4年3月1日

編集 有明高専だより編集委員会

発行 有明工業高等専門学校

〒836 大牟田市東萩尾町150

TEL 0944-53-1011(代)